

# 明治機械ストップ高

## 大型飼料生産プラント工事を受注

発表した。受注先は西日本飼料で受注金額は約36億円で、大幅な収益上振れを期待した買いが殺到した。

20日、明治機械(6334)がストップ高。同社はこの日8時30分に大型配合飼料生産プラント工事を受注したと

今週の動意銘柄

### あいHD失望売り

20日、あいホールディングス(3076)が急反落、約1カ月半ぶりに年初来安値を更新した。19年6月期の連結業績は、売上高57.5億円(前期比5.4%増)、営業利益9.5億円(同5.7%増)と増収増益を予想したが、市場の期待に届かなかった。併せて、米GODテクノロジ社と業務提携、3D配信テレビサービスに着手すると発表した。特に反応はな

### オープンハウス急伸

20日、オープンハウス(3288)が急伸。三菱UFJモルガン・スタンレー証券がレディンクを「Hold」から「Buy」へ、目標株価を6300円から7500円へ引き上げた。M&A効果や米国での投資物件の販売拡大を織り込み、18年9月期を通過連結営業利益で会社側計画と同様の47.5億円(前期37.6億1700万円)から48.5億円へ引き上げている。

### 日テレホン3日連続S高

21日、日本テレホン(9425)が3日連続でストップ高に買われた。総務省が来年7月から中古スマートフォンを全携帯電話会社で使用でき

るように「SIMロック」の解除を義務付ける方針を固めたと伝わったことをきっかけに人気を集めており、短期資金の流入が続き、同社が扱う中

# ユニーフアミマ利食い

20日、ユニーフアミリーマートホールディングス(8028)が急反落。伊藤忠商事(8001)が子会社を通じて実施した同社株に対するTOB(株式公開買い付け)が成功したと発表した。株価は前週末に大幅高となり、TOB価格1万1000円を上回る1万1530円まで引けていた反動もあって、利益確定売りによって押し下げられた。

古携帯電話機「エコたん」の販売拡大による業績上振れ期待が、買いの根拠になっているが、全般手掛かり材料難のなか、値動きの良さが新規資金を呼び込み、マネーゲームの様相を呈している。

# 正直いいさんの株で大判小判

24日の東京市場は4日続伸でした。111円40銭台まで進んだ円安を追い風にフシ目の2万2500円を回復、閑散商状に変わりはありませんが、後場からは強含む展開になりました。2万2500円が多かったが、突破した程で買えな平均やマザ見せていること見せてきた一角が見直されピックアップ(567)、ゼンリ(9474)は上げムコ(7408)が新値。任天堂(7974)は9月のゲームショウへ向けて下値を拾って問題ないと考えています。引き続き強い銘柄の押し目拾いで

花咲翁



### シンクレイヤ信用規制

21日、シンクレイヤ(1724)が急反落した。20日取引終了後、東証がこの日売買分から信用取引の委託保証金を50%以上(うち現金20%以上)に引き上げたことで

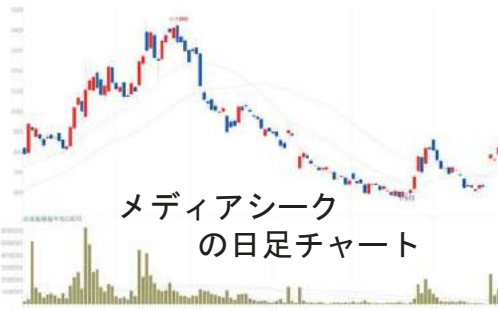
買い手控えられ値を崩した。日証金も同様。この日売買分から貸借取引自己取引分および非清算者ごとの清算取次貸借取引自己取引分にかかる借担保金率を、50%(うち現金20%)に引き上げている。



# メディアアシークS高

## 決済電子化支援報道受け

21日、メディアアシーク(4824)はストップ高。日本経済新聞が「政府はモノやサービスの決済の電子化(キャッシュレス化)を進めるための支援に乗り出す」と報じたことを受け、QRコード読み取りアプリを取り扱う同社が思惑買いを集めた。スマートフォンで読み取るQRコードを使った決済基盤を提供する事業者は補助金を供与し、中小の小売店



メディアアシークの日足チャート

と発表したこと、TOB価格900円にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。買い付け期間は9月19日まで。同社もTOBに賛同の意見を発表しており、ADEKAを引受先とする2089万5600株の第三者割当増資も実施する。TOB完了後も上場

## 日本農薬はTOB

22日、日本農薬(4997)がストップ高。ADEKA(4401)が同株に対してTOB(株式会社公開買い付け)を実施し連結子会社化する

ビルングシステム(3623)や決済代行サービスのメタップス(6172)、スマートデバイス向け電子決済システムを扱うフライトホルディングス(3753)も大幅高に買われた。

は維持する。

### アンジェス行使完了

22日、アンジェス(4563)が急反発。17年9月に発行した第31回新株予約権の権利行使が完了したと発表し、需給改善による株価浮揚効果が期待された。

### やまや株主優待

22日、やまや(9994)が急反発。株主優待制度を導入すると発表した。毎年3月末時点と9月末時点で100株以上を保有する株主を対象に、自社店舗「やまや」で利用できる株主優待商品券3000円分贈呈する。

心踊る夏を彩る、巻き寿司の花火。

あじかんは、味と品質にこだわり抜いた幅広い製品で日本の食文化を支えます。

おい  
つだ  
って  
満  
腹  
も  
心  
も  
た  
し  
た  
い。

ぎゅっと詰まった食べる喜び。

**株式会社 本じかん**

本社: 〒733-8677 広島県広島市西区商工センター一丁目3番9号  
TEL 082-277-7010 FAX 082-277-7330

あじかん

<http://www.ahjikan.co.jp>

企業観察

ハリマ化成G (4410)

粘接着剤の拡大戦略推進

ハリマ化成グループ(4410)の19年3月期は、第1四半期で連結営業利益10億8000万円(前年同期比14.2%増)と順調な滑り出しとなった。ロータリー社が主力市場の欧州を中心に販売を拡大、樹脂化成品、製紙用薬品、電子材料が収益を大きく改善した。ロータリーは粘接着剤の販売数量を大きく伸ばす一方、価格競争が厳しく粗利が低下。ただ、ロジン生産の際に採取される高採算のテレピン油が伸び収益を下支えした。粘接着剤はスウェーデンのサンパイン社による増産対応が可能で、今後取扱い拡大に重点を置くこ

高効率生産でコスト競争力強化

とから、コスト競争力強化が課題。このため、テレピン油に加え、省人、省力化による高効率生産にも取り組む。さらに、ロータリーと連携して「国内市場も深耕する」(会社側)構えで、付加価値製品の開発を進め、利益率を高めていく。電子材料は自動車向けを中心に販売が伸び収益力もアップ。製紙用薬品は9月に中国山東省の新工場稼働することから、杭州と東莞工場の余剰キャパを使った増販が可能になる。現状、業績は計画線上で進んでおり、通期計画の営業利益45億円(前期比12.2%増)は最低ラインになりそうだ。

23日、大同メタル工業(7245)が急落、年初来安値を更新した。155万8400株の公募増資と上限100万5000株のオーバードットメントによる売出し、514万1600株の自己株式の処分を行うと発表したことを受け、希薄化や需給悪化を懸念した売りがかさんだ。公募増資と売出しにより発行済み

株式総数は最大で5.7%増加する見込み。23日、オルトプラス(3672)がストップ高。ソニー(6758)グループのフォワードワークスが同社が開発したスマホ向けゲームアプリ「アークザラッド」の配信を開始したと発表したことを受け、早期収益貢献が期待された。

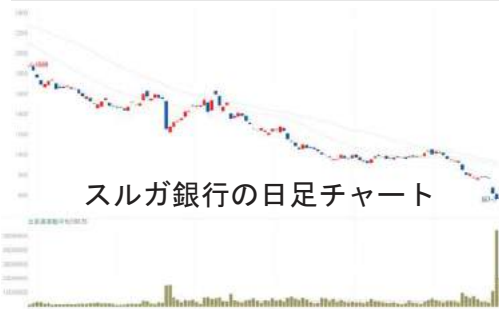
オルトプラス高

スルガ銀S安で安値更新

不適切融資1兆円報道を嫌気

円規模にのぼる」と報じたことを嫌気した。売り殺到した。

22日、スルガ銀行(8358)がストップ高で年初来安値を更新。日本経済新聞で「審査資料の改ざんなど不適切な行為に基づく融資が1兆円規模にのぼる」と報じたことを嫌気した。売り殺到した。



シェアハウス投資に絡む不正融資を巡り、スルガ銀行の第三者委員会が実施した調査の概要によるもので、「スルガ銀は第

三者委の調査結果を受けて、経営責任の明確化を含めて抜本的な体制刷新を迫られるという。

**公開価格の2倍**

チームスピの初値 22日、チームスピ(4397)が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格1200円の2倍となる2417円で初値を付けた。同社は勤怠管理、経費精算、工数管理等を一体化したクラウドサービス「Team Spirit」などの提供を行っている。

相場の雰囲気に変化

先週の東京株式市場は反発となりました。米中の次官級通商協議やジャクソンホール会議など手控え要因が多く、売買代金2兆円割れが続きましたが、週末に掛けて円安が進行した事で日経平均は4連騰となりました。日経平均は上値レジスタンスとして意識されていた200日、25日、75日線を回復。一方でTOPIXは未だ主要移動平均線以下で推移しており、実態は変わらないということになりますが、個別銘柄で目に付く動きが出始めており、相場の雰囲気が変わりつつあるように感じます。

本格上昇相場には程遠い状況ではありますが、個別で短期勝負できそうな環境となってきました。そうした売買が回転し出すと、徐々に相場の体温が上昇していくこととなります。短期ディーリングでは10日前の終値を越えた株が何故か値動きが活発になります。



日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

大同メタルは希薄化懸念



イトアンド  
(2882)

# カンタン便利新製品で攻勢 新関東工場で需要増にも対応

高69億1900万円(前年同期比4.9%増)、営業利益1億8400万円(同6.1%増)と増



大阪王将 羽根つき餃子

イトアンド(2882)は全国の生活協同組合や一般量販店、さらにはインターネットで「大阪王将」ブランドなどの冷凍

食品を販売、これと併せて大衆中華料理の「大阪王将」を主力にラーメンの「よってこや」、「太陽のトマト麺」、ベーカリーカフェ「R Baker Inspired by courtrosarian」などの外食チェーン店を展開する、フルライン型フードメーカーである。

食品事業では「大阪王将 羽根つきチーズ餃子」を中心に新商品の販路拡大などに取り組んでおり、19年3月期は第1四半期(4~6月)で連結売上収増益を達成、通期予想である売上高300億9400万円(前期比6.8%増)、営業利益8億8000万円(同14.1%増)達成へ向けて順調に推移している。8月末からは新商品9品、リニューアル品3品を新たに投入。さらなるカンタン便利を追求すべく油いらず・水いらずに加えてフライパンの「フタいらず」の簡単調理でキレイな羽根がつく「大阪王将 羽根つき餃子」は話題を集めそうだ。需要増加に対応するため19年10月竣工を目指して「新関東工場」の建設も11月から着手する予定。



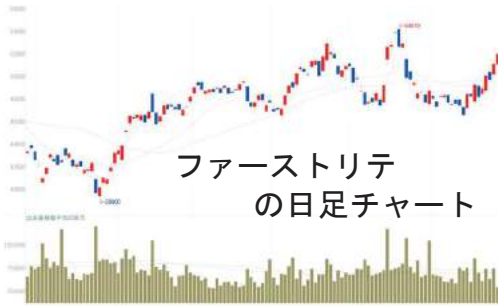
イトアンド  
の日足チャート

大阪王将 羽根つき餃子

食品を販売、これと併せて大衆中華料理の「大阪王将」を主力にラーメンの「よってこや」、「太陽のトマト麺」、ベーカリーカフェ「R Baker Inspired by courtrosarian」などの外食チェーン店を展開する、フルライン型フードメーカーである。

食品事業では「大阪王将 羽根つきチーズ餃子」を中心に新商品の販路拡大などに取り組んでおり、19年3月期は第1四半期(4~6月)で連結売上

## 特選銘柄



ファーストリテ  
の日足チャート

23日、ファーストリテイリング(9983)が反発。29日付の日本経済新聞が「傘下のユニクロは中韓以外のアジアとオセアニアで出店を拡大する」と報じたことが材料視された。2022年8月期までの5年間で17年比で2.5倍の400店舗規模に増やす。シンガポールなど進出済みの6カ

## ファーストリテ反発

### アジア・オセアニア出店拡大

国で追加出店するほか、インドに進出する。ユニクロはアジアを主に生産拠点として

## MDM一時S高

### 骨接合材料薬事承認

週末4日、日本エム・デイ・エム(7600)が一時ストップ高まで買われた。米子

位置づけてきたが、中産階級が育ってきたと判断し、中国に次ぐ販売先に育てるとしており、アジアオセアニア事業の本格的な拡大と収益貢献を期待した買いが向かった。

### しまむら既存店減収

24日、しまむら(8227)が反落。

会社材料製造する骨接合材料新製品「MDMウルナ」の薬事承認を取得したと発表されたことを受け、収益貢献を期待した買いを集めた。高齢者の腰痛遠位骨折と併発する尺骨遠位骨折に対応する骨接合材料で、日本人の尺骨遠位骨折の形状に

## 今週の動意銘柄

8月の月次業績で、既存店売上高が前年同月比5.6%減と4カ月連続で前年実績を下回ったことが嫌気された。昨年と比較して休日が1日少なく、2週にわたる台風襲来が週末の客足を影響した。客数は2.0%減、客単価も1.4%減となり、全店ベースでも3.4%減と4カ月連続前年割れとなった。

# 好業績が強く株価下支え

## 下落局面で過度な悲観は不要

光世証券  
取締役 **西川 雅博 氏**

8月になってトルコリラ急落を受け、不安心理が広がったが、今のところ影響は限定的である。

日経平均は短時間で再び7月以降の2万2500円中心のレンジに戻った。全体の売買高が低調で短期売買の参加者が偏っているため、決算内容やファンドの換金売りで株価のブレが大きくなるケースがあるが、弱気相場も長く続かない。逆に日経平均採用銘柄の中で、アステラス製薬(4503)やセコム(9735)のように通商問題など国際情勢の影響を受けにくい銘柄で高値を更新する銘柄も出ている。米国中心に先進国経済は依然力強く、下落局面で過度に悲観になる必要もないだろう。ただ、8月特有の需給要因もあり、トレンドを見極めるにはもう少し時間を要しそうだ。

好調な企業業績が強固な株価下支えになる状況に変わりはない。4〜6月期決算発表を受け、足元の日経平均ベース予想EPSは1700円強まで上昇している。最近の日経平均レンジ中心値近辺まで戻った24日現在でPERは13・2倍程度。過去3年のPERのレンジは概ね13〜16倍、最も低下したのが今年の3月23日で12・22倍、最も高かったのは2016年12月16日の16・64倍だ。企業業績から見れば2万2000円台は割安で、過去3年の平均的PER14・5倍まで買うと2万4700円である。利益予想に対する第1Qの進捗率の高さからしても、実体と乖離した水準とは言えない。



貿易摩擦問題の行方だが、中間選挙の予備選後半戦が終わるのが9月12日頃で、それ以降

## 相場展望

11月の本選挙に向けてはトランプ大統領の強硬姿勢に変化が見られる可能性もあるのではと見ている。



# プロが教える

## 法人向け保険ならお任せ！

### 節税対策にも最適

お客様のニーズに応じた最適な商品・ベストプランを提携保険プランナーを通じてご提案します。

詳しくはココ・パートナーズ(株)アドバイザー業務部まで。

[info@marketpress.jp](mailto:info@marketpress.jp)



## 潮流

## 外国人売りを放置するな

## ヘッジファンド現物も大量に空売り

marKet / bAnk

海外投資家（外国人）は今年1月～3月に株価指数先物を6.1兆円売り越した。

日経平均は

1月の高値(2万4129円)から3月の安値(2万347円)まで3782円(15.6%)も値下がりした。この間の下げは海外投資家＝ヘッジファンドといった投機筋が株価指数先物を大量に売ったことで起こった。その後、ヘッジファンドは4月から売っていた株価指数先物を買戻してきた。4月から8月第2週までの株価指数先物の買い越しは2.13兆円となり、この間、5月と7月に日経平均は2万3000水準に回復している。ただ、8月に入り、投機筋は日本の株を売ってきている。8月第3週(13～17日)の日経平均先物とTOPIX先物の投資部門別売買動向によると、海外投資家(外国人)は3週連続で売り越した。合算した売越額は3259億円。日経平均は8月13日に2万1857円まで下落した。

お盆休みを挟み、日本の株式市場は超閑散だ。東証1部市場の売買代金は8月17日から5日続けて2兆円を下回った。5日連続の2兆円割れは2017年12月25～29日以来だ。米中の貿易協議や米カンザスシティ連銀主催の経済シンポジウム(ジャクソンホール会議)とい

った重要イベントを控えて国内投資家は様子見を決め込んでいる。上昇が続かない日本株式市場に魅力を感じないのは当然だろう。一方、アメリカの株式市場は過去最高水準を維持している。トランプ大統領は

22日にツイッターで、「株式市場の歴史において最長のブル相場となった。アメリカおめでとう！」と呟いた。

これまでのS&P500の長期上昇相場は1990～2000年に3452日続いたが、8月23日を以て2009年3月9日から続いたS&P500のブル相場は3453日続いたことになるという。S&P500は21日には2873.23まで上昇してザラ場ベースの史上最高値を更新している。終値ベースの史上最高値更新は時間の問題だ。アメリカでS&P500に連動する投資信託を買っている投資家は誰一人損をしている人はいないのである。株を買えば損する日本と正反対である。ヘッジファンドの売りは先物だけでなく、現物株でも大量に空売りをしている。これ以上ヘッジファンドの売りを放置するな。

潮流銘柄はメディシノバ・インク(4875)、ネットマーケティング(6175)、アイビーシー(3920)。

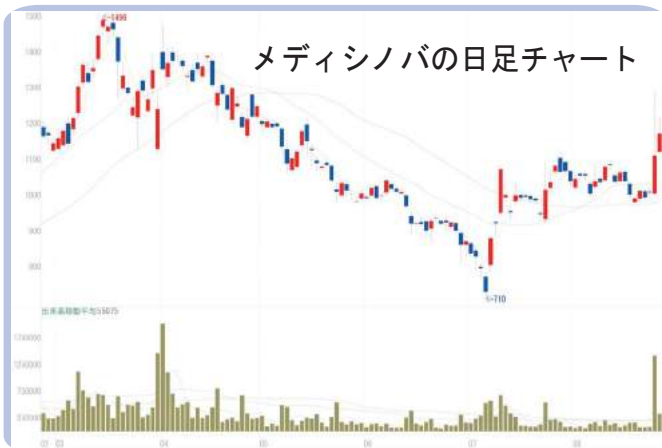


岡山 憲史氏(株式会  
社マーケットバンク代  
表取締役)のプロフイ  
ール

1999年2月日本初  
の資産運用コンテスト「第  
一回S1グランプリ」にて  
約1万人の参加者の中か

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

メディシノバの日足チャート



米株は最長のブル相場

# チャートから読む 騰落銘柄

## メガチップス (6875)



任天堂の戻りにツレ高する形で8月21日の安値1831円で底打ちの動きで、7月下旬の揉み合いゾーンである2600円台までの上昇はありそう。スイッチの高機能バージョン投入の噂も支援材料の模様。

## ゼンリン (9474)



大勢上昇トレンドのなか、約2週間の高値高値保ち合いを経て上値追いを開始。好業績期待に加え、信用倍率1.09倍の好取組も株価を押し上げ、鋭角的に上昇し始めた5日線にフォローされ噴き値局面へ。

## KYB (7242)



8月20日に安値更新後も上値は重い。建機用油圧機器の増産コスト増や海外向けの補修用ショックアブソーバの伸び悩みなどが懸念材料で、業績不安高まれば中期的に16年以来の4000円割れの可能性も。

## スギHD (7649)



成長鈍化を懸念して急落。その後、買戻しに戻りを試すが、25日線に跳ね返され再び下落に転じる。日足は陽転ならず、週足は陰転。年初来安値を更新し、急降下する5日線に上値を抑えられ一段安も。



# 今週の

# 活躍期待銘柄



## カーリットHD (4275)

### 電池評価試験が大幅拡大

カーリットホールディングス(4275)の株価は7月26日の高値1149円から調整を続けていたが、900円割れで下げ止まる動き。PBR1倍割れの時価は好調な業績からも割安感が強い。化学品では自動車用緊急保安炎筒は、新車装着向けや車検交換向けが苦戦するものの、産業用爆薬は土木案件が増加、受託評価分野では電池試験が大幅に拡大し、19年3月期は第1四半期(4~6月)の連結営業利益で3億5100万円(前年同期比52.8%増)と大幅な増益を達成している。リチウムイオン電池などの危険性評価試験が今後も拡大基調が続くうえ、機能性コンデンサ向けピロール関連製品や電気二重層キャパシタ用電解液などの好調からも通期予想である24億円(前期比18.3%増)は上ブレが期待できそうだ。(と)

業績好調でPBRは1倍割れ



## オプティム(3694)

### 新規事業創出し高成長路線

オプティム(3694)は高値保ち合いを上放れ、一段高へ向かいそうだ。19年3月期第1四半期の単独決算は、売上高10億5100万円(前年同期比21.2%増)と大幅増収ながら営業損益1億9600万円の赤字(前年同期1億3500万円の黒字)で着地。ただ、赤字は戦略的開発投資によるもので、売り上げ、利益とも計画通りとして、通期は売上高50億6000万円(前期比20.2%増)、営業利益100万円(10億円(同9.8%減)2.5倍)と期初予想を据え置いた。国内SaaS型MDM市場トップで、IoT・AI・ロボットを融合して新規事業を創出し高成長路線を進行しており、農業や林業、医療、金融、災害対策でも実績を積み上げている。理想買いで実質最奪回へ。(さ)

IoT・AI・ロボットへ戦略投資

※チャートは日足

# アンジェスは予告通り

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

弱気論者が増えていきましたが、筆者はこの欄では何度か日経平均で2万2200円割れが下値のメドとして指摘してきました。8月第4週も週明けから米中協議の動向を見極めたい動きが強まり様子見で終始、新興国通貨も落ち着いているもの、先行きの不安が払しょくされないことも手控えられる一因になった。しかしながらこの欄を執筆している23日までの動きを見る限り、過度な下値不安は後退し、円台まで回復

する動きに変わりに見えていませぬ。指数構成の主力銘柄では菅官房長官が日本の携帯通話料は外国に比べて高すぎるとの発言でソフトバンクグループ(9984)やNTT(9432)などの通信大手が下落する場面がありました。ソフトバンクについては一時、1万円を回復する局面もありましたが、今後の値下げを考えるとこうした銘柄は戻り売りで対処する以外になさそうです。指数が戻す過程でも主力銘柄の中で選別していく必要があるでしょう。このところ一貫して勧めていましたアンジェス(4563)が急反発し、22日にはストッブ高まで買われました。恐らく5月末までの地相場になつていた500円台まではスナリと戻すとみています。その後は調整の後に、600円近くまで買われて遺伝治療薬の製造認可をみて1000円台まで駆け上るとみています。年内実現と考えています。従って、この銘柄は調整場面でしつかりと拾うことで大きな成果を得られるものと確信しています。製造認可後に販売が始まって2年後には大きな利益を確認されると3000

## エクセディなどにも注目

大紀アルミ工業所(5702)も再び反騰しはじめています。今度は760円を抜いていくものとみています。アイフル(8515)も動きづきははじめました。ここからが上げ足が次第に早まると思われます。今回はエクセディ(7278)、東京製鉄(5423)、丸紅(8002)に注目です。

高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市情報  
これでどや!!  
<http://www.kabun-takano.com/>  
毎日情報を配信中!







★ 必要だろ。高下を招く自動売買などによるデリバティブ取引の監視強化



株式市場と企業経営を良い方向に向かわせるなら、むしろ株価の乱高下を招く自動売買などによるデリバティブ取引の監視強化が必要だろ。

## 星野三太郎の 株街往来

～四半期開示に問題はない～

爆弾を投下するトランプ大統領が今度は、米証券取引委員会（SEC）に対し企業に決算を四半期ごとでなく半期に一度発表することを許容した場合の影響を調査するよう要請したことを明らかにした。



## New product

ナカバヤシ

### ロジカル・エアーノート約20%軽量化 「くまのプーさん」と「スヌーピー」の新シリーズ2種

気の高機能ノートシリーズ。

「ロジカル・エアーノート5冊パック」のラインアップとして「くまのプーさん」と「スヌーピー」の2種を追加。「くまのプーさん」はやさしくカラフルな色合いと、「風船」をテーマにした「くまのプーさん」と仲間たちのゆったりとした世界観が特徴のデザイン。「スヌーピー」はシンプルなアートと背クロス



「くまのプーさん」と「スヌーピー」

ナカバヤシ(7987)は「ロジカル・エアーノート くまのプーさん/ バルーンシリーズ5冊パック」と、「ロジカル・エアーノート スヌーピー グッドフレンズシリーズ5冊パック」を全国で発売開始した。

「ロジカル・エアーノート」は約20%の軽量化を実現した機能性ノート。本文罫には分割メモリをいれるなど工夫を凝らした「ロジカル罫」を採用している。まとめやすさにこだわり、きれいなノート作りをサポートする人

に合わせた色合いで、用途に合わせて使い分けしやすく、年齢問わず使えるデザイン。どの製品も表紙、裏表紙それぞれに異なるアートを使用し、各キャラクターの世界観が溢れる可愛いデザインとなっている。

教科ごとの使い分けができるセミB5サイズの5冊パックなので、小学生～中学生の2学期用ノートに最適。

ノートは、丈夫な糸綴じ製本を採用、オープン価格で全国で販売している。

# ハチロクの裏話

敏腕先物トレーラー

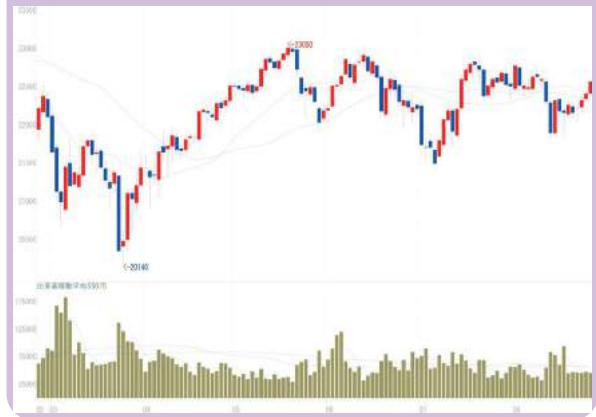
## 高値取りのサインは？ 仕掛け的な売りに引き続き注意

である。チャート的には三角持ち合いが煮詰まってきたように思われる。下値は3月26日の2万347円19銭を起点とし、7月5日の2万1462円95銭を結ぶ線が下値支持ラインとして機能している。8月16日の安値2万170円もこのラインのレンジ内で推移すると思われるが、トランプ氏

先週の日経平均は懸念されている。週末現在でこのラインは2万2000円処、この水準はボリンジャーバンドの▼2σと同じ水準である。一方、上値ラインは5月21日の高値2万3050円39銭を起点とし、6月12日の高値2万3011円57銭を結ぶ線が上値抵抗ラインとして機能している。7月18日の高値2万249円32銭もこのラインで抑えられており、このラインを抜いてくることなく高値取りのサインとなる。現在のこのラインは2万2850円処、この水準はボリンジャーバンドの△2σ(2万2820円処)と同水準であり、かなり重い上値抵抗ラインとなりそうである。今週はこの抵抗ラインのレンジ内で推移すると思われるが、トランプ氏

で下げ止まっており、この安値切り上げの抵抗

日経225先物日足チャート



### 今週のスケジュール

- 24日 パウエル米FRB議長、米経済シンポジウムで講演
- 27日 独8月Ifx景況感指数(17:00)  
米7月シカゴ連銀全米活動指数(21:30)
- 28日 米8月CB消費者信頼感指数(23:00)
- 29日 8月消費動向調査(14:00)  
米4-6月期GDP改定値(21:30)  
米7月中古住宅販売仮契約(23:00)
- 30日 7月商業販売統計(8:50)  
米7月個人所得・個人支出(21:30)
- 31日 7月労働力調査・有効求人倍率(8:30)  
7月鉱工業生産(8:50)  
中国8月製造業PMI(10:00)  
ユーロ7月圏失業率(18:00)  
米8月シカゴ購買部協会景気指数(22:45)

の突発的な発言により相場が大きく動く可能性も高く、仕掛け的な売りには引き続き注意が必要である。(ハチロク)

夏枯れ相場が続いた。米中貿易問題の行方やジャクソンホール会議の動向を見極めたいという事で、積極的な買いが手控えられたためだが、買い気は乏しく上値の重い状況は今に始まったことではない。ショールポジションを積み上げた海外勢は下押しを買いを入れるが、上値は買ってこないからだろう。5月の連休明け以降、戻りを試しても上値は切り下がっている。別銘柄も同じで、慎重さは個別銘柄追いつきの筆が増え逆には失速するケースが少なくないだろう。

### 編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。